

未来ノート

-202Xの君へ-

テニス

錦織圭

子ども時代の夢

大切にする言葉

父親からの教え

世界へはばたく

遊び原点 長続きのひけつ

テニスに限らず、トップアスリートの多くは、支える両親の本気度がすごい。錦織圭（日清食品）の父清志さんの目標も高かった。世界ランキング1位になったアンドレ・アガシ（米）は3歳でラケットを

握ったと聞き、「圭はまだ5歳だから、始める時期はそれほど後れをとっていない。世界一になれるかも」と思った。

テニスの専門誌はすべて買いそろえ、熟読した。「テニス界のどんなささい

なことも見逃さない決意があった」。錦織が愛用するラケットメーカー、ウィルソンの日本支社に知人を通じて売り込み、11歳という異例の若さで用具提供契約を結んだ。選んだ理由は

「将来、海外転戦するようになったとき、トッププロが多く使っているメーカーなら手厚いサポートが期待できるから」。先を見すえて研究し、行動に移した。

自身も学生時代、テニスに明け暮れていた清志さんは、息子にテニスの大事な点も話して聞かせた。「実生活で人をあざむくのは悪いことだけど、テニスはルールの中で、相手の心理の逆を突き、だますことが勝負なんだよ。勝ちきることが尊い」と説いた。その一方、遊び心も大切

にしてほしかった。

「人生の中ではテニスより大切なことはたくさんある。たかがテニス、されどテニス」という心のゆとり。それが上達、長続きのひけつだと感じていた。

「遊びが原点にあることを忘れてほしくなかった。遊びは楽しい。楽しいからあきない。本気で取り組む。本気だから強くなる。強くなるから、もっと楽しくなる。そんな好循環が理想なんだと思う」

燃え尽き症候群とは縁がない錦織がいう。「同じ世代の友人を見ても、なかなか好きなことができなかったりする。僕は（テニスが）仕事という思いがない。趣味の延長線上で生きられているのが、本当に幸せ」



2007年のAIGオープンに17歳で出場した錦織圭。米・フロリダ州のIMGアカデミーで英才教育を受けたとして注目された

◆「未来ノート」スクラップブックは、全国のASA（朝日新聞販売所）でお配りしています。インターネットの特設ページではイベントやスクラップブックについて詳しく紹介しています。「未来ノート 朝日新聞」で検索してください。